

論述・選択問題とも取組み易かったH24年度1級土木実地問題。 施工経験記述問題がどう採点され、合格率に反映されるかに注目。

今回の実地試験は解答しやすい問題が多く、手応えを感じた受験生も多くいたことと思われる。

■例年と比較して一般的なテーマが出題された〔施工経験記述問題〕

先ず、**施工経験記述**であるが、出題形式は、「具体的な現場状況と特に留意した技術的課題（9行）」、「検討した項目と検討理由及び検討内容（11行）」、「現場で実施した対応処置（7行）」という昨年と同様の指定であり、記述課題は「現場状況から特に留意した工程管理」で、平成18年度から22年度までの記述テーマと比較すると極く一般的なテーマとなっており、大半の受験生が記述できたものと思われる。

■全般的に解答し易かった問2～問4／難易織り交ぜの問5～6〔選択問題〕

次に**選択問題**であるが、**問2・3**の**土工・コンクリート工**については、学科で出題されている問題や過去問に関連した問題（土工では土留め工における掘削底面の安定、法面の崩壊の予測。コンクリート工では打継目の施工、混和剤の種類と使用目的）で、基本的な受験準備を行っていれば記述できる問題であった。

問4の品質管理は、例年どおり、**土工とコンクリート**の問題が出題された。

土工は「盛土の試験施工」に関する出題で、基準書で定められている語句で全問を解答するのは難しくとも、前後の脈絡からかなりの部分が解答できる比較的易しい問題であり、また、コンクリートについても、「ひび割れの原因と防止対策」の記述が求められたが、同様の過去問で出題されたひび割れの種類が2つ混じっていたため、解答できた人も多いと思われる。

問5・問6は、設問の一方が新規で解答しにくい問題、もう一方が学科の内容や過去問からの解答し易い問題を配置し、難易織り交ぜた構成となった。

先ず、**問5**の**安全管理**であるが、設問1は平成22年度出題の「土石流危険河川等」に関する新規問題であり、設問2は、過去によく出題された「足場からの墜落等による危険の防止措置」の記述問題であった。

また、**問6**は昨年度と同様、**設問1**が**施工計画**、**設問2**が**建設副産物**の問題で構成され、施工計画に関しては学科問題程度のレベルで解答し易い穴埋め問題で、建設副産物については、産業廃棄物の保管基準の記述を求める非常に解答しにくい問題であった。

以上、総合すると、選択問題に関しては、例年、設問1と設問2は難易を混ぜて出題される場合がほとんどで、問題を選択する際に迷う場合が多かったが、今年は問題2～4において両問共に解答しやすい問題が並んでいたため、結果は期待できると思われるが、経験記述がどう採点されるか、その結果を踏まえながら発表を待ちたい。